

1 全国学力・学習状況調査（4月18日実施）の概要

- (1) 「教科に関する調査」と「生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査」を実施しました。
調査対象教科は、国語・数学・英語です。
- (2) 教科に関する調査の内容について
- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

2 教科（国語・数学・英語）に関する調査結果の概要

国 語	本校の3年生が得意としている力（数値は全国平均との差）	△文章の構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをもつ力。（+9.5 P） △相手に分かりやすく伝わる表現について理解する力。（+8.5 P） △伝えたい事柄について，根拠を明確にして書く力。（+10.1 P）
	本校の3年生が苦手としている力（数値は全国平均との差）	▼文章の展開に即して情報を整理し，内容を捉える力。（+3.0 P） ▼話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ力。（+0.7 P） ▼書いた文章を読み返し，論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する力。（+2.1 P）
	本校の学習の成果として表れたこと	◎全体として無解答が少なく，答えを書こうとする意識が高いこと。 ◎「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の4領域すべてで，全国平均よりも正答率が高く，日常での授業や学校生活での実践が結びついていると考えられること。
	本校の課題と考えられること	●記述式の問題では，無回答の割合が，全国平均を下回っているものの，他の問題に比べると割合がかなり高くなっていること。
数 学	本校の3年生が得意としている力（数値は全国平均との差）	△結論が成り立つための前提を考え，新たな事柄を見だし，説明することができる力。（+8.8 P） △資料を整理した表から最頻値を読み取る力。（+8.2 P） △与えられた説明を振り返って考え，式変形の目的を捉える力。（+10.3 P）
	本校の3年生が苦手としている力（数値は全国平均との差）	▼簡単な二元一次方程式を解く力。（-5.6 P） ▼グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を，事象に即して解釈する力。（-0.9 P） ▼問題を解決するためにどのような代表値を用いるべきかを判断する力。（-1.2 P）
	本校の学習の成果として表れたこと	◎「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の4領域すべてで，全国平均よりも正答率が高く，日常での授業や学校生活での実践が結びついていると考えられること。
	本校の課題と考えられること	●「数と式」の領域で，連立二元一次方程式の正答率が低かったこと。 ●「図形」の領域で，平行移動の距離の正答率が低かったこと。 ●「関数」の領域で，問題解決の方法を数学的に説明することについて無解答率が高かったこと。
英 語	本校の3年生が得意としている力	△教室英語を理解して，情報を正確に聞き取る力。（+6.6 P） △まとまりのある英語を聞いて，話の要素を理解する力。（+8.0 P） △聞いて把握した内容について，適切に応じる力。（+7.7 P）
	本校の3年生が苦手としている力	▼日常的話題について，簡単な文で書かれたものの内容を，正確に読み取る力。（+2.9 P） ▼まとまりのある文章を読んで，説明文の大切な部分を理解する力（-1.3 P） ▼書かれた内容に対して，自分の考えを示すことができるよう，話の内容や書き手の意見などをとらえる力（-4.4 P）
	本校の学習の成果として表れたこと	◎全体として無解答が少なく，答えを書こうとする意識が高いこと。 ◎「聞くこと」「書くこと」の領域で，全国平均よりも正答率が高く，日常での授業や学校生活での実践が結びついていると考えられること。
	本校の課題と考えられること	●「読むこと」の領域で，まとまりのある文章を読んで，書かれている内容を理解することについて正答率が低かったこと。

3 学習状況（生活習慣・学習習慣・学習内容）の調査結果の概要

全国平均と比較して、肯定的な回答を示した割合が高い質問内容。 （数値は全国平均との差）	①自分にはよいところがあると思う。（＋8.9 P） ②学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強している。（＋8.1 P） ③生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。（＋9.5 P） ④授業で学んだことを、他の学習に生かしている。（＋10.6 P） ⑤1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。（＋6.6 P） ⑥1、2年生のときに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいた。（＋6.4 P）
全国平均と比較して、肯定的な回答を示した割合が低い質問内容。 （数値は全国平均との差）	①朝食を毎日食べている。（－0.3 P） ②毎日、同じくらいの時刻に起きている。（＋0.8 P） ③将来の夢や目標をもっている。（－0.5 P） ④ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。（－1.2 P） ⑤学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上読書している。（－1.9 P） ⑥今住んでいる地域の行事に参加している。（－7.8 P）

4 指導の改善策（結果を分析し、11月の職員会議で重点策の共通理解を図り取り組んでいます）

<学校/学級別解答状況整理(S-P表)について>

- ・今年度、改善策の策定にS-P表(学校/学級別解答状況整理表)を参考にしました。得点状況からは把握できない被験者の個々の問題における成就度や苦手意識などを把握することができ、きめ細かな個別指導の指針および指導の改善などに役立つものです。この表の分析から、クラスや学年といった集団での課題の傾向を見つけ出すことができます(本校の課題については上段2の各教科ごとの「本校の課題と考えられること」を参照してください)。

<主体的・対話的で深い学びの授業改善>

- ・次期学習指導要領（中学校は、令和3年度から完全実施）改定の主要テーマの1つである「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向け、昨年度から1単位時間の学習の流れ「課題の提示（見通す）⇒個人思考（振り返る）⇒集団思考（交流する）⇒まとめる」を全教科の学習を通して実践しています。
- ・学力向上に向けて、無解答率の高かった問題、正答率の低かった問題について、理解を深められるように、ほっかいどうチャレンジテスト単元別問題や旭川市学力向上プリント集等を活用しながら授業を行っています。また、定期テスト前や長期休業中には、希望者を対象に放課後学習会を行い、補充的な学習を行っています。
- ・本校にはチームティーチング・習熟度学習の教員が配置されており、1～3年生の数学の授業で取り入れています。その成果が生徒の学力に着実に表れていますが、課題も見られました。今後も、生徒の学力向上に向け、本校の課題となっている連立二元一次方程式の解き方や平行移動の距離の求め方の指導に重点を置くとともに、理解が不十分な生徒には適切にアドバイスをするなど、工夫改善を重ねながら一層充実した取組を進めていきます。

<社会に開かれた教育課程>

- ・1,2年生での地域交流学習・職場体験学習等において、地域社会と本校生徒に身に付けさせたい資質・能力を共有しながら学習を進めています。今後も地域の皆様のご協力をいただきながら一層充実した取組になるよう教育課程を編成していきます。

<家庭学習の習慣づくりに向けて>

- ・学習は毎日の積み重ねや家庭での予習・復習が大切です。家庭学習の意識を高めるために、学期末テスト前には家庭学習取組調査を実施していますが、生徒一人ひとりが目的意識をもって学習に取り組んだ結果、家庭学習の習慣は着実に身に付いてきています。今一度、ご家庭で、普段の生活や学習について話し合ったり、将来の夢や希望についてお子様の考えを聞いたりしていただきたいと思います。また、ゲームやメディア(SNS・インターネット動画等)の接触時間等についても、各家庭での使用ルールをご確認していただければ幸いです。